

学校名 豊島区立さくら小学校

校長名 田中 亮太

学校の教育目標

・思いやりのある子 ・考える子 ・やりとげる子 ・元気な子

学力に関する目指す児童像

主体的・対話的に学びを深める児童

授業改善推進プランの全体像

(徳) 相手の気持ちを考え、思いやりのある子供
(徳) 自信をもってさまざまなことに取り組み、最後までやる子供
(体) 進んで体を鍛え、心身ともに健康な子供

笑顔あふれる
さくらの子

(知)
興味・関心・意欲を高め、
課題を主体的に追求する子供

主体的・対話的に
学びを深める児童
の育成

授業改善

・ICTの活用
・SDGs
・読書活動の充実
・CSの特性

めあて/課題の設定・・・本時で児童に身に付けさせたい力を明確にした授業
まとめと振り返りの充実・・・児童が本時で何が身に付いたのかを実感できる授業
教師主導型からの脱却・・・主体的・対話的な活動を重視した児童主体の授業

・各教科での育成したい資質・能力

・確かな学力の定着
・豊かな個性を伸長する教育
・人権教育と豊かな心を育む教育
・健やかな体の育成
・一人一人を大切にしている教育
・教育環境の充実

令和7年度 授業改善推進プラン（各教科）

1 国語科

目指す児童像を基にした国語科での育成したい資質・能力		
<p>言語のもつ特性を理解し、言語感覚を養いながら、日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付ける。</p> <p>筋道を立てて考える力や、感じたこと・想像したことをもとに自分の考えを形成し、人との関わりを通して伝え合う力を育てる。</p>		
学年	現在の状況	改善のための取組
スタート カリキュラム	<ul style="list-style-type: none"> ・なかよしタイムを設定し、自己紹介の活動を通して仲間作りをした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい人間関係の構築のために、自分の名前を記入したカードを利用して自己紹介をすることで、伝え合う力を高められるように指導する。
低	<ul style="list-style-type: none"> ○読書を好む傾向がある。 ○文法的な表記が曖昧な所がある。 ・助詞の習熟が必要。 ・拗音・撥音・促音の習熟が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせを多く取り入れる。 ・視写を多く取り入れる。 ・文で伝える機会の確保。
中	<ul style="list-style-type: none"> ○叙述をもとに登場人物の気持ちや事柄の順序を読み取ることができる。 ・漢字や語彙などの習熟に課題がある。 ・伝えたい事を明確にして、内容のまとまりが分かるような文章を書くことに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・接続語や語彙を意識して、短い文を書く機会を増やす。 ・習った漢字を日常的に使う機会を増やす。 ・読書のよさを伝え、読書への意欲を高めさせる。 ・毎時の振り返りを通して、自分の課題を捉えさせ、次時への意欲を高めさせる。
高	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の意見とその理由を明確にして書くことができる。 ・登場人物の心情を、描写に基づいて捉えることが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・物語文の読解では、直接的な表現だけでなく情景の描写なども手がかりにしながら、表現の工夫に注目させ、心情の理解を深められるよう指導する。

2 社会科

目指す児童像を基にした社会科での育成したい資質・能力		
<p>社会的事象について、よりよい社会を考え主体的に問題解決しようとする態度を身に付ける。</p> <p>多角的な思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、我が国や世界に生きる人々への自覚をもつことができる。</p>		
学年	現在の状況	改善のための取組
中	<ul style="list-style-type: none"> ○身近な地域について意欲的に学習している。 ・資料を読み取る経験が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の生活と関連させ、興味をもって学習できるよう具体例や具体物などを示す。 ・写真資料・動画資料・グラフや表などの資料を用いる際には、児童が興味をもつようなものを精選していく。また、資料の読み取り時には資料内の事実と自分の意見とを区別するようくり返し行

		わせることで、資料の意図に気付くように指導する。
高	<ul style="list-style-type: none"> ○日本の地形と気候について、関連付けて理解している。 ・資料を読み取ったり、複数の資料を関連付けて考えることが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料から読み取れる事実を明確にし、複数資料を扱う際には、時間的・空間的な共通点や相違点を意識させた上で考察できるように指導する。

3 算数科

目指す児童像を基にした育成したい算数科での資質・能力		
<p>数量や図形の基本的な性質を捉え、統合的・発展的に考える力や、数学的な表現を使って事象を簡潔かつ的確に表現する力を育成する。</p> <p>学習を振り返りよりよく問題解決しようとする態度、算数で学んだことを生活や学習に活用しようとする態度を身に付ける。</p>		
学年	現在の状況	改善のための取組
スタート カリキュラム	<ul style="list-style-type: none"> ・なかよしタイムで数字を使った手遊びを取り入れ、数に興味をもたせるようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「数合わせゲーム」を活用して数に慣れ親しみ、「なかまづくりとかず」の学習に繋げていく。
低	<ul style="list-style-type: none"> ・10の合成と分解の定着していない児童がいる。 ・100以上の数の理解ができない児童がいる。 ・単位の読み方や量の感覚を身に付けていない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ブロック等を操作したり、図や絵に表したりする活動を繰り返し行い具体物→半具体物を活用して定着を図る。タブレットでドリル練習に取り組みさせる。 ・量の感覚を養うため、児童たちの生活に関連したものを取り上げ、およその見当をつける活動を取り入れる。
中	<ul style="list-style-type: none"> ・数の大小と不等号への理解に課題がある。 ・2桁の加法減法の繰り上がり・繰り下がり計算に課題がある。また、かけ算九九、わり算の定着ができていない児童がいる。 ・時計や長さの単位の定着が弱い。 ・辺や面の数の認識が低い。 ・分度器の使い方に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体物を使い視覚的に理解を深められるようにする。 ・補助数字などを確実に書かせミスが減らせる。 ・時間に意識を持たせる活動を多く取り入れたたり、他教科を関連して長さについての経験を増やしたりする。
高	<ul style="list-style-type: none"> ・小数×小数の計算に課題がある。 ・割合の理解に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計算のルールを徹底し、ケアレスミスを防ぐようにする。 ・比較量・基準量・割合の関係を明確にし、数直線などを活用して、考える力を高めるように指導する。

4 理科

目指す児童像を基にした理科での育成したい資質・能力		
<p>自然の事物や現象に関心を持ち、観察や実験を通して科学的に理解しようとする力を育てる。 主体的な問題解決に取り組む態度と、科学的に考える力を育成する。 自然を愛する心情や主体的に問題解決しようとする態度を身に付ける。</p>		
学年	現在の状況	改善のための取組
中	<ul style="list-style-type: none"> ・自然に関する事象の理解に課題がある。 ・用具を扱う学習に関して課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然事象との関わりを意図的に準備することで、理解を深める。 ・実験や観察をする際には、1人1実験、または少人数でのグループ実験を徹底し、自分事として実験・観察の計画を立てたり取り組んだりできるよう指導をする。
高	<ul style="list-style-type: none"> ・用具の扱いに課題がある。 ・実験結果を他の事象に応用する考察が苦手である。 ・仮説に基づいた実験方法の考察ができない。 ・学習内容を日常生活と結び付けることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1人1実験または少人数でのグループ実験を行い、計画的に主体的に取り組めるように指導する。 ・「結果」と「考察」の違いを明確にし、考察では学習問題や仮説に立ち返って目的に沿った内容になるよう指導する。 ・単元の振り返りで、学んだ内容と日常生活を関連付けてまとめるようにする。

5 生活科

目指す児童像を基にした生活科での育成したい資質・能力		
<p>身近な人や自然、社会との関わりを通して、自分自身や自分の生活を見つめ、考え、豊かに表現する力を育む。 学習材に進んで働きかけ、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとする態度を身に付ける。 活動や体験の過程において、その良さや関わりについて気付き、必要な習慣や技能を身に付ける。</p>		
学年	現在の状況	改善のための取組
スタート カリキュラム	<ul style="list-style-type: none"> ・入学前の状況は様々であるが、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとする姿が見られる。 ・「わくわくタイム（合科的な生活科）」で学校探検を行い、校舎内や上級生が学習する姿を見て、小学校という場に興味関心をもつことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今までの園の生活を大切にしつつ、その上に小学校での生活を積み重ねる。 ・「なかよしタイム（学級づくり）」「わくわくタイム（合科的な生活科）」「ぐんぐんタイム（教科学習の時間）」を無理なく組み合わせ、学校生活を楽しみながら知り少しずつ慣れる。
低	<ul style="list-style-type: none"> ○学習教材に興味をもっている。 ・気付いたことを文章で表現することが苦手な児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の思いや願いを基に授業を構成する。 ・授業の導入で、学習教材との出会わせ方を工夫する。

		・探究することが明確になるよう、めあてを意識する。
--	--	---------------------------

6 音楽科

目指す児童像を基にした音楽科での育成したい資質・能力		
音楽を通して自分の思いや意図を表現し、友達と協力して音楽活動を楽しむ態度を育てる。		
学年	現在の状況	改善のための取組
低	<ul style="list-style-type: none"> ○めあてに向かって楽しく身体を動かしたり、歌ったり演奏したりすることができる。 ・感じたことや気付いたことを、言葉に表すことに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感じたことや気付いたことを言葉で表すことができるように、カードを利用して言語化する。 ・日常的に友達と意見交流を行い、より豊かな表現ができるようにしていく。
中	<ul style="list-style-type: none"> ○学習に見通しをもち、思いや意図をもって演奏したり、歌ったりすることができる。 ・思いや意図を音に表していく技能に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の見通しがもてるように、ワークシートを題材を通したものにしたり、板書で流れを確認できるようにしたりする。 ・楽器に触れる時間やどのように歌いたいか考える時間を増やし、児童が実際に試しながら思いにあった音を表していけるようにする。
高	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想を感じ取り、思いや意図をもって表現できる。 ・自らの学習を振り返り、次時に向けた課題をもつことができる。 ・グループ活動では、一部の意見に偏ってしまうことがある。 ・表現に必要な技能に個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを活用し、個人の意見をもったうえでグループ共有を行い、表現活動に活かせるようにする。 ・児童の実態に合わせた教材を選び、リコーダーや鍵盤ハーモニカの基礎技能を高める。

7 図画工作科

目指す児童像を基にした図画工作科での育成したい資質・能力		
造形のおもしろさや美しさを感じ取り、表現の意図や方法を考え、創造的に発想・構想して表す力を育てるとともに、作品への理解を深める力を育成する。		
学年	現在の状況	改善のための取組
低	<ul style="list-style-type: none"> ○活動に興味・関心をもって意欲的に取り組んでいる。 ○感じたことや思ったことを積極的に発信しようとしている。 ・自分の力で発想、構想をしたり、工夫することが苦手な児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・導入で、見本作品を見たり、ゆっくり考える時間や用具を使ったりする時間を多くとる。 ・友達の作品を見合う時間を確保する。 ・今までの授業でやった技法や工夫の方法を思い出す。友達の良い所を見付け合い、取り入れるようにする。
中	<ul style="list-style-type: none"> ○自分のつくりたいもののイメージをもち、そのイメージに向かって進んで活動に取り組む児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・題材ごとに、ふりかえりまでのスケジュールを分かりやすく提示するようにする。 ・ワークシートを活用し、作品完成までのスケジュー

	<ul style="list-style-type: none"> ・学んだことやできたことを具体的な文章で書き表していく技能に課題がある。 ・作品を仕上げるまでの時間配分が苦手なため、最後までやりきることができない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ルールを自分でたてる時間を設けるようにする。 ・友達の作品を見る時間をつくり、お互いの進み具合を確認できるようにする。 ・ふりかえるポイントを確認する時間をつくり、できたことの言語化を促すようにする。
高	<ul style="list-style-type: none"> ・めあてを意識しながら作品づくりに取り組んでいる。 ・活動や課題を振り返り、言語化することができる。 ・感じたことや考えたことを発表・共有することに苦手意識がある児童が多い。 ・つくりたいイメージは持てても、最後まで追求することが難しい児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個々に応じた課題やアドバイスをを行い、支援する。 ・これまで学んだ表現方法の復習や、選択肢の提示を通じて、表現の幅を広げる。 ・小集団から発表を始めるなど、安心して発表できる環境づくりを行う。

8 家庭科

目指す児童像を基にした家庭科での育成したい資質・能力		
日常生活をよりよくしようとする意欲をもち、衣食住・家庭生活・環境・消費に関する基礎的な知識と技能を身に付ける。		
日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、課題を解決する力を育成する。		
学年	現在の状況	改善のための取組
高	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に制作や調理に取り組んでいる。 ・制作技能に個人差があり、個別指導を要する児童もいる。 ・学習した内容を生活に活用している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童同士で教え合う機会を設け、互いに力を高め合うようにする。 ・苦手な児童でも取り組みやすい制作課題とし、見通しをもって活動できるよう工夫する。

9 体育科

目指す児童像を基にした体育科での育成したい資質・能力		
さまざまな運動に親しみながら、その特性を理解し、自らの課題を見つけて主体的に取り組み、他者と共有する力を育てる。		
学年	現在の状況	改善のための取組
低	<ul style="list-style-type: none"> ○体を動かす楽しさを十分に味わって、進んで運動をしている。 ・自分のことに精一杯で、友達のよい動きを見つけたり、友達に伝えたりすることが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・うまくいかない場面を取り上げ、友達と一緒にやってみたり、コツを教え合ったりする機会を設定する。 ・簡単に記入できる学習カードなど用いて、自分の動きを客観的に振り返ったり、友達のよさを見つけたりする。

中	<ul style="list-style-type: none"> ○体を動かすことに意欲的な児童が多い。 ・基本的な動き方が身に付いていない児童が多い。 ・できることをやるだけで、できないことをできるようにしようという意欲が低い。 ・友達のよい動きを見つけたり、友達に伝えたりすることが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動の楽しさを感じさせ、活動への意欲を高めさせる。 ・児童の技能に応じた場を用意したり、段階的に指導をしたりすることで、「少しできた」という意識をもたせるようにする。 ・学習カードへの記録や振り返りを通して、自分や友達のよさを見付けさせる。
高	<ul style="list-style-type: none"> ○チームで協力し、技能を高めようとする意欲がある。 ・どの領域においても、技能の差が大きい。特に泳力に大きな差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・技能別にグループを編成するなど、個の技能に応じた練習時間を確保することで、個別指導の機会を増やす。

10 英語活動・外国語活動・外国語科

目指す児童像を基にした外国科等での育成したい資質・能力		
外国語による「聞く・話す・読む・書く」の技能を通して、自分や他者の考えや情報を正しく理解・表現できるコミュニケーション力を育成する。 外国語を通じて、言語やその背景にある文化を尊重しようとする態度を身に付ける。		
学年	現在の状況	改善のための取組
低	<ul style="list-style-type: none"> ○英語でのコミュニケーションを楽しんでいる。 ・基本的な挨拶に不安があったり、ALTの指示が分からず、何をしたいか戸惑ったりする児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・繰り返し、基本となる挨拶などに触れさせ、英語に慣れ親しむことができるようにする。 ・英語の歌を多く取り入れ。英語に慣れ親しむことができるようにする。 ・ALTの指示に対して、担任が間に入り、活動に参加できるようにする。
中	<ul style="list-style-type: none"> ○英語での友達とのコミュニケーションの機会を楽しんでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アクティビティを通して、英語でコミュニケーションをとることの楽しさをさらに味わえるようにする。
高	<ul style="list-style-type: none"> ○英語でのコミュニケーションを楽しんでいる。 ・アルファベットの大文字・小文字や4線の位置の区別ができない児童がいる。 ・既習内容の組み合わせによる表現に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アルファベットの練習を日常的に取り入れる。 ・既習内容を確認した上で組み合わせられるようにして、表現への抵抗感を減らす。

1 1 特別の教科 道徳

目指す児童像を基にした道徳科での育成したい資質・能力		
多様な価値に触れながら自己を見つめ、よりよく生きるために必要な道徳的判断力・心情・実践意欲を養う。		
学年	現在の状況	改善のための取組
低	<ul style="list-style-type: none"> ○内容項目に興味をもち、自分の考えを発言したり、ワークシートに自分の考えを書き、伝え合うことができた。 ・ねらいとする道徳的価値を、自分事として考えることができていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳的内容項目に迫れるように、一人一人の感じ方や考え方を深め合う話し合いをする。 ・一般化の部分に時間を確保し、これから自分はどうしていくかについて具体的に考えさせる。
中	<ul style="list-style-type: none"> ○登場人物の気持ちに寄り添って考えようとしている。 ・正しいことは理解しているが、道徳的実践力として生かされておらず、生活に生かされていないことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人を大切にするために、いろいろな考えがあることを受け入れる。 ・日常生活と結びつけられるように、自分の生活を振り返る時間をとる。
高	<ul style="list-style-type: none"> ○登場人物への共感や、道徳的に正しい言動を考えることが得意である。 ・実際の生活場面で、感情が先行し、正しい行動が取れない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳の学習と日常生活を結び付け、さまざまな考え方や行動を実践させる。

1 2 総合的な学習の時間

目指す児童像を基にした総合的な学習の時間での育成したい資質・能力		
<p>実生活の中から課題を見だし、情報を集め、整理・分析し、主体的にまとめて表現する力を育てる。</p> <p>対話と振り返りを通して、探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を身に付ける。</p>		
学年	現在の状況	改善のための取組
中	<ul style="list-style-type: none"> ○調べ学習においては意欲をもって取り組む。 ・調べることにとどまり、それを実践したり、発表したりする学習活動には至らない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の学びたい意欲を引き出すような学習活動を展開する。そのために、振り返りの活動を充実させ、次の学習活動を児童が決め、進めていくようにする。 ・調べたことを発表する場を設け、意欲的に学習できるようにする。
高	<ul style="list-style-type: none"> ○調べたことをまとめて考えを広げることができる。 ○調べた内容を取捨選択して分かりやすくまとめることが得意である。 ・自ら次の課題を見つけることが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が身近に感じられる課題設定を行い、主体的に学習を進められるよう教材研究や工夫を重ねる。 ・毎年の実践を活かし、次の課題に繋がる学習計画を立てる。

1 3 特別活動

目指す児童像を基にした特別活動での育成したい資質・能力		
<p>集団の一員としての役割を理解し、他者と協働しながらよりよい人間関係を築く力を育てる。 集団や自己の生活、人間関係の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定をしたりする力を育成する。</p>		
学年	現在の状況	改善のための取組
低	<ul style="list-style-type: none"> ○当番、係活動を熱心に行うことができる。 ○学校行事に積極的に参加している。 ・学級での自治的活動の経験が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小集団での話し合いの機会を設定する。 ・子供たちから話題を引き出し、全員が主体的に話し合いに参加できるようにする。 ・学級での自治的活動の機会を設定する。
中	<ul style="list-style-type: none"> ○当番、係活動は積極的に行うことができる。 ○学校行事に積極的に参加している。 ・学級会での話し合い活動の経験が少ない。 ・決められたことへの取り組みはできるが、自分たちで取り組みを広げることには至っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全員が話し合いに参加できるように、ペアや小グループでの話し合いを取り入れる。 ・自分たちの活動を振り返る機会を設ける。
高	<ul style="list-style-type: none"> ・当番や委員会活動を積極的に行っている。 ・学校行事への参加意欲が高い。 ・リーダーとして意欲的に視野を広げている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的に話し合い活動を教科に取り入れ、経験を積ませる。 ・話し合いが建設的に進むように声かけを行う。

1 4 交流及び共同学習の進捗状況

学年	現在の状況	改善のための取組
低	<ul style="list-style-type: none"> ○交流、共同学習を楽しみ、進んで取り組んでいる。 ・人の話を聞くことに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアや小グループでの伝え合いの学習を取り入れ、共同的な活動の機会を増やす。 ・相手の話を興味をもって聞くために、全体の場でのふりかえりを生かす。
中	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いを伝えたり、相手の話を聞いたりするなどのコミュニケーション面に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が興味を持つテーマに沿って、活動を取り入れることで、より意欲的に関わられるようにする。 ・ペア、小グループで「確認」「同意」を行う活動を繰り返し、コミュニケーション方法が徐々に身に付くようにする。
高	<ul style="list-style-type: none"> ・課題に対して自分の考えを持ったり、広げたりすることに課題がある。 ・自分の思いを伝えることに消極的な児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な場面から自分の意見を言う習慣をつける。